

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 2月 24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170101109		
法人名	北商 株式会社		
事業所名	グループホーム ライフケア中央倶楽部		
所在地	札幌市中央区北7条東12丁目11-2 (電話) 011-281-3434		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成21年2月18日	評価確定日	平成21年3月2日

【情報提供票より】 (平成21年2月5日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年5月31日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤7人, 非常勤1人,	常勤換算4.1人

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1、2 階部分

### (3) 利用料金等

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費:18,500円 暖房費(11~3月): 6,000円
敷金	有 ( 円) ( 無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円) ( 無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要 (2月5日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名
要介護3	1 名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 79 歳	最低 69 歳	最高 88 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮の沢ファミリークリニック にひら歯科医院
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームライフケア中央倶楽部」は、アパートを改築した、民家改造型の1ユニットのグループホームである。同一法人内に、他にグループホーム1カ所と小規模多機能型居宅介護事業所を運営しており、3施設で職員と利用者が共に交流を重ねている。法人本部長やチーフ職員が中心となり、利用者の個々の生活を尊重し、笑顔で毎日元気に暮らせるような温かなグループホームを目指し、日々の介護に取り組んでいる。利用開始前に1週間ほどの体験入居を実施しており、利用者ができるだけ納得して利用開始できるよう配慮するなど、日々の生活においても、法人の基本理念に含まれている、その人の思いと意思を尊重した利用者本位の介護が行われている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回の外部評価で取り組みとされた、職員間での理念の共有、家族アンケートの実施、運営推進会議で、災害対策や自己評価・外部評価を議題として取り上げるなど、積極的に取り組みが行われている。市町村との連携も、可能な限り、担当窓口を訪問して情報交換を行うなどの取り組みを行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	チーフ職員が、日々の介護において特に意識がけが不足していると思われる項目を抜粋して、他の職員に意見を聞いて自己評価をまとめ、法人内のチーフ会議において他の事業所の代表者からの意見も参考にして作成している。自己評価をする事で日々の介護を振り返り、職員自身が向上していく契機と捉えている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、3ヶ月毎に開催し、利用者家族全員に案内をし参加を呼びかけている。町内会代表や地域包括センター職員などの参加のもと、衛生管理や防災についてや認知症の対応などについても話し合われている。参加者から町内の老人の状況を聞くことにより、事業所として何が出来るかを考える機会にもなっている。認知症の対応について情報提供する事で、地域における家族介護にも運営推進会議が役立てられている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	家族の意見や不満は貴重な資源と考え、来訪時には、家族に積極的に話しかけて意見や不満が気軽に話し合える雰囲気作りに配慮したり、前回の外部評価を踏まえ、家族アンケートを実施するなど、事業所、法人共に家族の意見の収集に常に努力している。不満や苦情が出された時は、職員会議で話し合いを行い、適切な対応をするよう体制を整えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	町内会に加入しており、お祭りなどに参加しているが、町内活動はあまり活発に行われていない。職員と利用者は散歩の時、道端のゴミを拾ったり、公園の落ち葉拾いと一緒にゴミを拾うなど、日々地域に根ざした活動を行っている。近隣とは、筍や茸、山菜を貰ったり、隣人が孫を連れて遊びに来てくれるなど親しい交流が行われている。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	3施設を運営する法人の基本理念である「ともに生活し、暮らしを支え、命を守る」と「私達の四つの望み」を基本に、事業所独自の理念として「今日の笑いは明日に続く皆んななかよし」と言う文言を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、事務所、食堂、廊下、リビングなど常に目につく所に掲示すると共に、法人理念と四つの望みはパンフレットに掲載されている。2週間毎に行われる会議においても、理念について話し合っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しているが、活動はあまり活発に行われていない。職員と利用者は散歩の時、道端のゴミを拾ったり、公園の落ち葉拾いと一緒にゴミを拾うなどの地域活動を行っている。近隣とは、筍や茸、山菜を貰ったり、隣人が孫を連れて遊びに来るなど親しい交流をしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	チーフ職員が他の職員に意見を聞いてまとめた自己評価を、法人内のチーフ会議において他の事業所の代表者からの意見も聞き作成した。自己評価をする事で日々の介護を振り返り、職員自身が向上していく契機と捉えている。評価結果は、運営推進会議メンバーに配布し、取り組み項目に対して積極的に取り組んでいる。	○	自己評価の作成には、評価内容を全職員が理解して参加できるようにして行きたいと考えているので、今後は、職員全員が段階的に自己評価に参加していくような取り組みを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者家族全員に案内をして参加を呼びかけている。町内会代表や地域包括センター職員などの参加のもと、3ヶ月毎に開催し、防災についてや認知症の対応などについても話し合わせ、地域に於ける家族介護にも情報が役立てられている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人の幹部が市役所や区役所を訪問し、事務手続きの他、グループホーム協議会の議題についてやグループホーム開設の規制などについて相談するなど、積極的に情報交換を行っている。		
<b>4. 理念を实践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月法人共通の「ライフケア通信」を発行し、行事予定や事業所の様子と共に、個別の写真を入れてコメントを記入し、家族に送付している。金銭出納報告は、遠方の家族には郵送し、来報する家族には、直接見て貰っているが確認印は貰っていない。	○	毎月の通信に、職員の異動事項を加えると共に、金銭出納記録は、見せるだけでなく確認印を貰うよう期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には、意見や不満が無いか積極的に話しかけて、気軽に言えるように配慮している。前回の外部評価を踏まえ、家族アンケートを実施したが回答は得られなかった。不満や苦情が出された時は、職員会議で話し合いを行い、適切な対応をするよう体制を整えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内で、毎年2月に2名ずつの職員異動を実施しているが、利用者の影響に配慮して系列施設合同で行事を開催するなど、職員と利用者の交流を深めている。新しい職員が配属になった時は、利用者や職員の間で以前からの職員が仲立ちをして、信頼関係が築けるように配慮している。		


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、法人本部で年間計画をたて、介護に必要な議題をテーマに、それぞれの専門分野の人を講師に招くなど、内部研修の充実を図っている。外部研修は、法人からの情報や職員自身も情報を収集し、職員の希望やレベルに合わせて積極的に参加できるような勤務体制を整える努力をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区のグループホーム管理者協議会に参加して、相互に施設見学を行っている。公園で知り合った他のグループホームとも相互訪問を行い、ゲームやおやつを共にすることもある。同業者との交流を通してサービスの質の向上に努めている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、家族や本人に来訪して貰い、一緒に食事をして貰ったり、1泊から1週間程体験入居をして貰うなど本人が納得して利用が開始できるように配慮している。利用開始後は、食事の時に隣に座って会話をしたり、利用者間の会話の仲立ちをしながら、安心して生活できるように配慮している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を人生の先輩として常に尊敬する気持ちを持ち、人生のアドバイスを貰ったり、利用者間のトラブルを解決して貰ったりして助けて貰う事により、精神的にも支えられていると職員は感じている。調理方法なども教えて貰うことにより、職員はとても助けられていると感じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向を表現できる利用者は多いが、周囲に遠慮している場合もあるので、生活リズムや生活歴を把握することで思いを汲み取るようにしている。介護経験の長い職員は、利用者の思いや意向を把握し易いので新入職員を育てることに力を入れている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	新規作成は、介護支援専門員が自宅や入院先の病院を訪問して本人や家族の思いや希望を聞き取り、暫定的な介護計画を作成している。入居1ヵ月後くらいを目処に見直しをしている。本人には、理解力の有無に関わらず説明し、押印を依頼している。家族には、来訪時や郵送で説明している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族の来訪時に心身の状況の変化を説明し、介護計画の見直しに備えている。また、往診時に医師から診療情報の提供を受け、3ヶ月毎に定期的な見直しをしている。心身の状況の変化に応じて課題を追加し、本人、家族に説明している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	点滴や医療処置が必要となる利用者は、現在のところは少ないが医療連携体制を整えているので入院回避や早期退院の支援は可能である。かかりつけ医への受診や個人的な買物の外出などを支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医がいる場合は、継続できるようにサービス利用契約時に説明している。かかりつけ医に受診するより往診のある協力医療機関への変更を希望する場合もある。家族が通院の介助をする場合は、日常生活の様子を伝える手紙を渡している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の指針を作成し、サービス利用契約時に説明している。開設以来、看取りの経験は無いが本人、家族の希望があり、医師の診断で事業所での看取りが可能であれば実施していきたいと考えている。重度化した場合は、「インフォームドコンセント」の書面で随時、話し合いを行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りを損ねることがないように言葉遣いの注意点を食堂に掲示し、職員の自覚を促している。大きな声を出さない、幼児扱いしないことに配慮している。個人情報は施錠のできるキャビネットに保管しているが、現在、パソコンを導入しているところである。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日をどのように過ごしたいのかについて、本人が希望を表現することもあるので、柔軟に対応している。急な外出には、個別に対応しているが希望に沿うことが難しい場合は、外出できない理由を説明している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は業者に委託しているが週に1回、利用者の希望を取り入れた献立としている。職員は、一人ひとりの利用者が調理に携わることができるように考えながら支援し、利用者は野菜の皮むき、盛り付け、食器洗いなどに参加している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に最低は2回の入浴を目標として、月曜日と木曜日の午前中から夕方までに1日に9名の入浴を行っている。午前中からの入浴を嫌がる利用者は、時間帯や曜日を変更し入浴を楽しむことができるよう支援している。女性の利用者が男性職員の介助を拒むことはない。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	廊下の掃除機かけ、庭の水遣り、草むしり、洗濯などの役割を持って生活している。何が本人の楽しみごとなのかを探ることが難しいのでストレスが溜まらないよう外出して屋外の空気を吸うことが一番の気晴らしと考えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏季は、週に3回ほど近隣の公園やJRの高架下の遊歩道などを散歩している。冬季の外出は転倒の危険性が高いため車を使って大型スーパーに出かけたり玄関前に出て雪に触れるなどの工夫をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、玄関の引き戸に鈴を付けて出入りを確認している。事業所の前は車道となっているので、一人で出かける利用者がある場合は、本人に分からないように後ろから見守りをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回自主訓練で設備点検、消火器の使い方、日中と夜間の避難訓練を実施している。職員のみでの参加と利用者も参加した場合の訓練では、避難に要する時間の差が大きいことを実感している。今年度は、消防署の協力の下に災害訓練を実施する予定である。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、食材配達業者の管理栄養士に委託している。食事は全利用者の日々の摂取量を記録しているが水分を自己管理している利用者もいるので、事業所で提供した水分の合計量を記録している。提供した水分の内容、場面、1回の摂取量は記録していない。	○	水分量が一日を通じて確保できるよう、提供した水分の内容や量をその都度記録することを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	予備校生の下宿を改造した建物で1階に2つの居室と共用空間がある。2階には、7つの居室とソファとテーブルのあるフロアと、洗濯スペースがある。1階の事務所に設置したカメラで2階のフロアで寛ぐ利用者の様子を見守ることができる。玄関や居間、台所は戸建住宅のしつらえで家庭的な生活感がある。	○	生活感や季節感を採り入れるために日めくりを置くことを期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には手作りの表札や管理者が旅行に行った時のお土産の飾り物が掛かっている。冷蔵庫を持ち込み、個人で購入してきた飲み物を自己管理している利用者もいる。壁に写真を飾るなどの居室作りが行われている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。